

UCDAアワード2011

生損保30社以上が参加へ
消費者協会からの評議員を増員

契約者向け帳票などをデザインの見点から評価・表彰する「UCDAアワード」主催の一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会(東京都中央区・福田泰弘理事長、以下UCDA)が2月から行う「UCDAアワード2011」に、生損保30社以上が現在参加を表明または調整していることが分かった。

また、生活者の視点を強化するため、評価会議後に行われる評議会に生活者代表3人を評議員として推薦することを、(財)日本消費者協会に依頼したことも明らかとなった。前回は同協会から職員1人が評議員として出席していた。

「UCDAアワード2011」では、第1回アワードで評価対象となった生保の「総合サービス」の部門に「通知」に加え、損保の「自動車保険証券(継続証)」と生保のウェブサイトに設けられた「契約者情報の確認ページ」が評価対象となっている。結果発表は3月23日の予定。

現在、「自動車保険証券」の部門には大手社を中心に10社以上、生保の「総合通知」「契約者情報の確認ページ(インターネットサービス)」の部門には前回を上回る21社以上が、それぞれ参加を表明もしくは最終調整しているという。UCDA事務局では「多くの生損保から参加の意向をいただき、帳票などの分かりやすさに対する関心の高さを感じた。期待に応えられるよう全力を尽くしたい」と話している。なお、エントリーの締め切りは1月21日の予定。